



令和6年(2024) 3月21日

45

富岡製糸場と絹産業遺産群 田島弥平旧宅

実家のある伊勢崎市で大々的に宣伝している名所が「田島弥平旧宅」です。ヤグラ(越屋根、天窓ともいう)付き総二階建ての近代養蚕農家建築の原点となった建物で、国指定史跡となっています。田島弥平(1822-1898)は、蚕の飼育には自然の通風が重要であると考え近代養蚕法「清涼育」^{せいりょういく}の開発に貢献しました。

なおこの場所は今の利根川よりも南で、普通利根川より南はだいたい埼玉県ですがこの場所は群馬県伊勢崎市です。なぜここが大々的に宣伝されているかといえば、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の一つだからです。現在この建物には子孫の方が住んでおられますので、主屋には入れませんが桑場と呼ばれる建物には入らせていただきました

以前小学校だった建物が案内所になっており、ビデオ解説と展示品があり、ガイドの方々が解説してくれます。展示品の中には弥平が使用した顕微鏡も展示されておりました。



ここがポイント！ 田島弥平旧宅の みどころを紹介するよ！

田島弥平旧宅は「養蚕」を行う農家へ蚕種（蚕の卵）を作って売る「蚕種製造業」をしていました。今でも文久3年（1863年）に建てられた主屋や、蚕種製造に関係した建物が残っています。

ポイント1 風通しの良さは2階の窓と「やぐら」にあり！



この窓をあけるよ。

主屋のいちばんの特徴は、屋根の上に作られた「やぐら」（葎屋根、天窓）です。やぐらは蚕室（蚕を飼育する場所）内の換気をすすめるもので、群馬県の養蚕農家にはよく見られます。この換気のおしきも考えたのが田島弥平です。

弥平は3年かけて蚕の飼育に適した建物にするため改良を行いました。瓦屋根の建



物では屋根裏に熱がこもってしまうため、屋根の上に暖まった空気が抜ける「やぐら」をつけました。

2階は東西南北を窓にして外から新鮮な空気を入れて、蚕室内を自然に近い形にしました。弥平が考え出した「清涼育」のための建物は、明治時代からの養蚕農家のモデルになりました。

ポイント2 主屋からつみ出した部分があるぞ！



主屋東側

主屋を東側からながめてみると、2階に突き出た部分があります。これは主屋と新蚕室を結んでいた「渡り廊下」の一部分です。

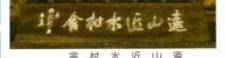
主屋の北東角には「顕微鏡室」があります。この部屋で顕微鏡を使い、蚕の病気の検査をしていました。いつも同じように光が差し込む北東側を選んで、大正時代に建てられました。現在も島村で顕微鏡室がみられるのは2軒だけであり貴重なものです。

ポイント3 ここに看板があるぞ！

「遠山近水村舎」ってどんな意味があるの？



縁側の廊がかかっているところ



主屋1階の縁側に、木で作られた高欄（看板）がかけられています。高欄には「遠山近水村舎」と書かれています。これは田島弥平家で蚕種（蚕の卵）を売るときの高欄（お店の名前）です。「遠く山を望む川べりの家」という意味で、弥平の父が京都に住む、頼山陽という歴史学者を訪ねて付けてもらいました。

天保3年（1832年）当時、利根川が田島弥平家の近くを流れていたことからその名がつけました。ほかにも「桑柘園」桑園の家という意味の屋号が使われていました。島村で蚕の卵を売る家は、お店の名前を持っている家が多かったようです。

ポイント4 利根川の洪水から家を守れ！

利根川の堤防が大正時代にできるまで、島村はたびたび洪水の被害にあっていました。大事な建物や井戸を洪水から守るため、建物は石と土を積んで作られた基礎の上に建てられました。この工夫は境島村でもよくみられます。



石や土で築いた新蚕室跡の基礎

ポイント5 ここにも建物があったよ

田島弥平旧宅の中には、建物がなく広く空いている場所があります。ここには「新蚕室」と「香月楼」という蚕を飼育する蚕室がありました。

「香月楼」が建っていた場所には、今でも「別荘」という建物と、香月楼の床下に作られた蚕種（蚕の卵）を保管しておくコンクリート製の冷蔵庫跡があります。

「新蚕室」があった場所は石と土で作られた基礎が残っているだけです。



別荘と冷蔵庫跡

図解！田島弥平旧宅

伊勢崎市境島村地区は、江戸時代から蚕種（蚕の卵）製造がさかんな地域でした。田島弥平家は、蚕の飼いを研究し、「清涼育」を考え出した田島弥平がくらしていたところです。広さは約4,000㎡あり、江戸時代の終わりから昭和時代に建てられた建物が残っています。

①主屋

今から150年以上前の文久3年（1863年）に建てられた建物です。大きさは幅約2.5m、奥行約9mで瓦屋根の2階建てで、1階は主に住まいとして、2階は蚕を育てる蚕室として使いました。北東角には「顕微鏡室」という、蚕の病気を顕微鏡で調べる部屋が大正時代に造られています。

2階の屋根の上には「葎やぐら」がついています。やぐらは暖まった空気を外へ出す換気の役割をしています。蚕を育てる時は、2階の窓から新鮮な空気を取り入れ、やぐらから暖まった空気を外へ出し、部屋の中を換気して自然に近い状態にしています。

②新座敷

主屋につけられた平座の建物です。大正時代に建てられました。

③文庫蔵

主屋と同じくらいの時期に建てられた、2階建ての蔵です。田島弥平家で使われた道具などを収納しています。

④種蔵

明治16年（1883年）に建て直された2階建ての蔵です。田島弥平家で作っていた産卵紙（蚕が卵を産み付けた紙のことで、これを養蚕農家に売りました）を保管していました。1階には産卵紙をつるした場所も残っています。



主屋



明治時代終わり頃の田島弥平旧宅



明治5年に弥平が出した「養蚕新録」の中の挿絵。

⑤桑場

蚕のえさになる桑の葉を保管したり、桑の葉を蚕の成長に合わせて刻んだりするための2階建ての建物です。明治28年（1895年）に建てられました。屋根にはやぐらが2つあることから、桑の保管だけでなく、蚕の飼育にも使われた建物と考えられます。

⑥別荘

田島弥平旧宅の中でいちばん古いと考えられる2階建ての建物です。もともとは新蚕室跡の場所に建っていた建物でしたが、新蚕室を建てる時に今の場所に移したと考えられています。屋根にはやぐらが1つあります。

⑦井戸

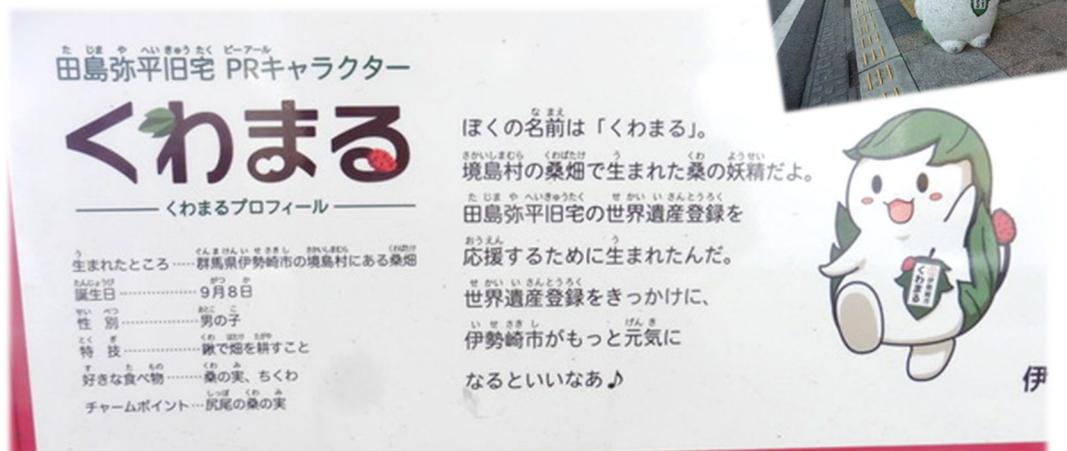
ふだんの生活や蚕を育てる時に使う水をくんでいた井戸です。洪水から井戸を守るため、基礎の上に建てられています。

⑧冷蔵庫跡

大正時代～昭和時代の初めに作られたコンクリート製の冷蔵庫です。軽井沢から運んできた米を使って冷やしていました。蚕の卵を保存するために使われました。

また、この場所は渋沢栄一の生家、渋沢記念館のすぐ近くにあります。

田島弥平が養蚕技法を確立し蚕種製造業を栄えさせることになったのには渋沢が大きく関わっておりました。



「清涼育」の開発

伊勢崎市境島村地区は、江戸時代中期から蚕種(カイコの卵)製造の盛んな地域で、**田島弥平家**も有力な蚕種製造農家でした。蚕の飼育は難しく、年によって収量の差が大きかったため、弥平は各地の養蚕方法を研究し、蚕の飼育には自然の通風が重要であると考え「清涼育」を大成し、安定した繭の生産に成功しました。

蚕の微粒子病を研究

幕末の横浜開港後、島村の蚕種製造農家は、当時**微粒子病**※で養蚕に壊滅的な被害が出ていたヨーロッパ向けの蚕種輸出に積極的に取り組みました。しかし、ヨーロッパにおける微粒子病が克服され、横浜からの蚕種輸出が振るわなくなると、島村では明治12年(1879年)から明治15年(1882年)の間、蚕種をイタリアへ輸送し現地で直接販売する直輸出を行いました。田島弥平はこの第1回の渡航メンバーの一人です。

最後の直輸出を担当した田島啓太郎がイタリアから顕微鏡を伝え、弥平は顕微鏡を用いて蚕の病気の検査・研究を行いました。後に、住居兼蚕室の2階北隅には顕微鏡室が増築されています。明治初期、生糸増産のために先進地の視察を行う際には、器械製糸は富岡製糸場に、養蚕技術は田島弥平に学ぶのがモデルコースでした。また、富岡製糸場の外国種などの試験飼育の要請に応え、繭品種の改良や統一運動に協力しました。

※**微粒子病**は、カイコガの幼虫がかかる病気。菌類の一種である微胞子虫類、ノゼマ科の、ノゼマ・ボンビシスが寄生することによって引き起こされる。微粒子病に罹患したカイコガの幼虫は、通常、暗褐色ないし黒色の斑点に覆われ、繭を作れなくなる。この原因を突き止めた研究者の一人がルイ・パストールである。

〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

#1 鎌倉殿の13人	#16 シアトルの花見	#31 陶器・像形展から銀座・日本橋界隈を散策
#2 紅葉の群馬県	#17 宇都宮市民合唱祭	#32 宇都宮芳賀ライトレール線開業
#3 栃木、埼玉の名所	#18 桜の名所 愛知・兵庫	#33 第14回男声合唱フェスティバルin宇都宮
#4 栃木、群馬県庁	#19 群馬の桜と上毛かるた	#34 コーア・リト 第5回演奏会
#5 全国御守り特集	#20 交通の要所・館林	#35 江戸城周辺散策
#6 世良田東照宮・家康	#21 第50回宇都宮市民合唱祭	#36 古巣の合唱団ノース・エコーとボーイング
#7 栃木・益子の陶器	#22 骨波田 <small>こつはた</small> の藤 <small>ふじ</small> と塙 <small>はまがいち</small> 保己一	#37 4泊5日の日光満喫旅行
#8 奥の細道むすびの地	#23 大室古墳群、鼻高展望花の丘	#38 日光で新たな発見！
#9 古鎌倉街道	#24 桜とあじさい、紅葉の太平山	#39 水戸パッパコレgiumを聴く
#10 新田義貞・上毛かるた	#25 ドン合唱団 歌い続けて65年	#40 笠間焼 益子焼 かさまこ
#11 慈覚大師 円仁	#26 宇都宮市民芸術祭合唱フェス	#41 伊勢崎市の歴史／バレンタインデー
#12 バレンタインチョコ	#27 第63回群馬県合唱コンクールを聴く	#42 第51回宇都宮市民合唱祭
#13 梅の名所 愛知・京都	#28 お盆飾りを調べてみた	#43 古 <small>いにしへ</small> の音 <small>ね</small> スペイン黄金世紀のビウエラ歌曲
#14 梅の名所 栃木・群馬	#29 KTC混声合唱団を聴く	#44 池 <small>いけ</small> 大雅 <small>たいが</small> 一 <small>いち</small> 陽光 <small>ひかり</small> の山水
#15 早咲きの河津桜	#30 伊勢崎藩を守れ！天明浅間山大噴火	

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る